

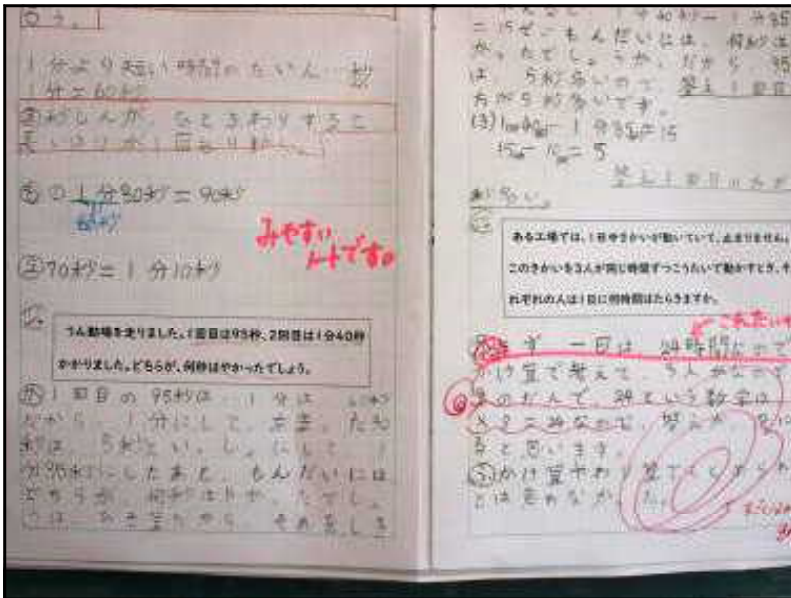
校長だより

和歌山市立八幡台小学校

2021.06.22

NO, 2 6

「ノート」について



1年生から、いろいろな授業で使うノート。これについて少し考えてみたいと思います。3年生の教室に掲示していた子どものノートの様子です。とっても丁寧に、しっかりかけています。算数ノートですが、問題を解いていくにあたり、わかること、考え方、

解いていく道筋、そういったことを自分なりの言葉で書いています。

算数では、問題は具体場面で出されることが多いですが、その場面、設定をまず理解し、抽象世界となる数、式に落とし込み、解いていくということになります。その時、大きな役割を果たすのがノート、だと思っています。人間、思ったこと、考えたことは結構すぐに忘れてしまいます。それを記録することにより、思考を継続させることができます。また、思考したことをノートに「かく」時、頭の中のイメージを文字や数、図などに落とし込む作業が行われます。ここで、考えがまとまっていきます。また、自分の考えたことを改めて認識することで、考えが広がったり深まったりすることもあります。ノートは、考えを進める「場」ともいえます。加えて、思考をなかまと共有することは難しいものですが、ノートに「かいた」ものはなかまと共有することができます。この共有を通し、なかまの考え、意見が自分の考えをさらに進めることもあります。なかまとの関りが考えを広げ、深め、より確かなものにしていきます。

この「かく」ことをしっかり鍛えておけば、中学校数学に確実につながると私は思っています。数学は抽象世界ですが、自分なりに「かく」（数直線や図などに）ことができれば、数の関係性がとらえやすくなります。本校では、そういったことも踏まえ、自分の考えを「かく」ことに力を入れています。どうぞ子どもたちのノートを時々で結構ですから見てあげてくださいね。そして、発達段階に応じ、よいところをほめてあげてください。また、励ましてあげてください。ノートには、その子らしさが詰まっているはず！ほめるところを見つけてあげるのも親としての腕の見せ所です！！どうぞノートで子どもたちと会話してくださいね！